

新聞雜誌

明治辛未九月

定價二匁

第十三號



特	別
18	
787	
12	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ムト多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カ、ル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 太政ノサマヲモ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カタキ世ニ生レシカレ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中
 ノ人々ト新知ヲ開ク樂ヲ同シ頑ナル心僻ノル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊ニ
 ヲ読玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナ驚可ク
 喜可キ事多ク唯一隅目ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レス夏虫氷ヲ疑、笑有リト
 知モ、サテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ベケレ

新聞雜誌第十二號

明治四年辛未



○八月廿四日

皇后ノ宮濱殿へ

行啓在セラレタリ

○今般華族ヨリ平民ニ至ル迄互婚姻被差許雙方願ニ

不及其時々戸長へ可届出ト、御布令アリタリ

○平民襠袴羽織着用可為勝手段御布令アリタリ

鍋島元佐賀藩知事管内へ告諭書寫

己巳ノ春謹テ版籍奉還セシ處不肖ノ身分新ニ被任知

事其職ヲ奉シ藩政ヲ改革スル茲ニ三年未タ治績ノ實

ヲ奏セズ奉對 朝廷誠ニ以テ奉恐入候依之更張ノ趣

意ハ嚮ニ告諭スル所ノ如シ然ル處今般別紙 勅語寫
ノ通益以テ大義ヲ明ニシ名分ヲ正フシ名實相副ヒ改
令一ニ歸シ候タメ藩ヲ廢シテ縣ニ改ラレ因テ予知事
職被免ノ御書付ヲ賜リ候ニ付謹テ職務ヲ解キ不日ニ
致上京儀ニ候此上ハ管内下々ニ至ル迄益 朝旨ヲ奉
戴シ益方向ヲ是定シ大勉強力ヲ奮起シテ各其職務コ
進歩シ以テ予カ赤心ヲ他日ニ表顯セシテ予希フ萬一
是迄ノ私情ニ糊著シ方向ニ惑ヒ人氣居合ズ動搖ノ姿
ニ移リ候儀等有之候テハ實ニ予カ不職ノ責ヲ免レサ
ルノミナラズ先考贈正二位公 皇室ニ忠事遊サレシ

旨ニ悖リ管内亦今日ニ竭ス所ノ道ヲ失フニ至ル莫ク
ハ管内下々ニ至ル迄予カ旨趣ヲ體認セヨ云々

佐賀縣士族歎願書寫

今般益大義ヲ明ニシ名分ヲ正フシ冗ヲ去リ管ニ就キ
有名無實ノ弊ヲ除キ專萬國ニ雄飛センカ爲藩ヲ廢シ
縣ヲ被置候趣且前知事懇篤ノ告諭等敬兼銘肝候就テ
ハ此迄被下置候過分ノ食祿其儘頂戴罷在候義素餐ノ
罪實ニ不堪愧懼候條返上仕度奉願候云々

○或洋人ノ咄ニ近來東京府下諸關門其他區所兵卒ノ
狀ヲ見ルニ更ニ一定ノ規則ナク守衛中手ニ銃ヲ執リ

テ足ニ足駄草鞋等ヲハキ或ハ立ナガラ書ヲ讀ミ同輩
 ト雜話シカヲ帶ルモアリ又脱スルモアリ其甚シキニ
 至テハ裸體ニ上着ヲ着スルナド印度地方ニモ見ガ
 サマヲナシ各自巳ノ意ニ任セテ懶惰ノ態ヲ顯ハセリ
 隨テ往來ノ者モ自ラ輕侮ノ心ヲ生シ法則ヲ犯スニ至
 ル畢竟取締方ノ名ノミアリテ其實未タ擧ラザルニヨ
 リナルベシ官コレ等ノ法則ヲ立ザルハナンゾヤ
 近頃米國ニテ尤ノ新聞アリシヨシ夫レ物ニ反對ト
 云ルコトアリ之ヲ日本支那ニタトヘン支那ハ西海第
 一饒地ヲ占メ天下第一ノ人口ヲ持チ數千年ノ昔ハ自

ラ文明國ト自負ヒリ且輓近ニ至テ各國ト交際ヲ始ム
 ル今ヲ去ル多年ナリ然ルニ日本ハ一孤島ヲ境トシ
 其開港スルヤ近キニアリ西國ノ沿革具差如此ニシテ
 今我國ニ支那人ノアルヤ其數ヲ知ラズト雖凡皆礦山
 ノ役夫或ハ奴隸トナリ甘ンメ人ノ使役ヲ受ケ其目的
 ニ至テハ一囊底ヲ滿タシ身ヲ安逸ニ終ヘンコトヲ欲ス
 日本人ハ然ラズ試ニ者ヨ太平洋ヲ渡リ月ヲ追テ西
 洋ニ航シ其求ムル所ノ者ハ僅々一囊底金ノ如キモノ
 非ズシテ滿胸ノ智ナリオナリ千金難購ノ物ヲ欲シ
 國民ヲ勵マシ物ヲ開キ務ヲ成ント其自國ノ他國ニ及

ハザルヲ知テ汲々反求スルノ志愛スベキニ非ズヤ
日本支那ハ同一ノ黄種ナリト雖氏人心人情ノ異ナル
一白種中英ノ「スペイン」ニ於ルガ如シ 日本モ日今ノ
憤勵ヲ以テ開化ヲ講スレバ數十年ノ後ハ文明國ノ列
ニ加ハルヲ必セリト

○八月十二日津山縣ニ於テ何者トモ知レズ同縣大參
事鞞懸吉寅ヲ砲殺シ逃去リシニ付各地方官ニ於テ遂
搜索速ニ捕縛可致トノ命アリ同人儀兼テ勤王ノ志
篤々者ナリシニ今般不慮ノ賊害ニ遭ヒシト不愍ニ被
思食祭糝料トシテ金七十兩下賜リシ由

○八月十日比大坂兵部省陸軍兵隊山城國宇治邊ニテ
野陣演習有之タル由

東京鳴原引掃ノ節府廳ヨリ告諭書寫

○府下遊廓ノ儀慶長ノ始迄ハ一定ノ場所ナク賣女ヲ
置ク僅ニ四五軒ニ過ス慶長十七年ノ頃庄司甚右衛門
妓樓追々所々ニ星散シ弊害不少旨建白ニ依テ元和三
年ノ頃菅屋町馬今町邊ノ邊ニテ二町四方ノ地ヲ傾城町
トナシ妓樓ヲ悉ク此地ニ集メ他ノ市街ニ遊女ヲ置ク
嚴禁タリ爾後明曆二年日本堤ノ邊今ノ芳原ニ移シス
是府城近傍ニ遊廓ヲ設ルハ風俗ヲ紊シ市民ヲ害スル

最大ナル者ニシテ制度ノ宜ク禁スベキ者ナレバ
リ慶應明治ノ際更ニ深川根津ノ西遊廓ヲ開ク當時ノ
事實覈知スベカラズト雖氏開廓已還僅々ノ年月ヲ以
弊害相生シ之カ爲ニ産ヲ墜シ職ヲ失フ者勝テ不可言
也抑官ハ民ノ利ヲ興シ害ヲ除キ一人モ其處ヲ得ザル
者十カラシムヘキニ去ル辰年新島原開廓ノ儀御許宥
相成シハ外國人居留地創設ノコトヨテ悠久ノ策ニア
ラズ然ル處段々弊害モ不尠現今漸次ニ制度確立風俗
正フスルニ至テハ廢除ナクンバ有ベカラス然トモ
忽切迫ニ及テハ變業ノ目的モ立難ク困難モ之アルベ

クナレ氏十人ヲ憫ミテ千人ヲ傷ルヲ顧ミス百人ヲ救
テ萬人ヲ陷ラスルヲ顧ザルハ人民ヲ保護スルノ意趣
ニ非ル也故ニ断然廢除ノ御處置有之事也憶フニ是迄
島原ニ住居スル者職業ヲ改メ商買ヲ營ント欲セハ御
許容アラン又其地ニ就テ蒸氣仕掛ノ機械場ヲ設テ
ノ説アリ市井ノ婦女子等モ其身分相應ノ職業ニ心
掛度モノナリ云々
八月廿日東京府ヨリ褒賞ヲ受ケシ徒畧記
一盃一組白細三匹
新吉原江戸早一丁目
松本金兵衛
右去午閏十月中遊廓内并近邊十九町ノ窮民へ米銀

若干ヲ施助スルヲ賞セラル

一 白細一反宛 同人抱遊女 瀟湘 今紫 小太夫 盛糸

右主人金兵衛ト共ニ同様施助スルヲ賞セラル

一 盃一組白細一匹 本西替町 田中佐治兵衛

右同年十二月中居町并隣町貧民三百四拾軒へ金一

兩宛施助セシヲ賞セラル

一 盃一組白細一反 本船町 植村 和吉

右當春二月一カニテ江戸橋際往還道路ヲ普請セシ

ヲ賞セラル

一 盃一組白細一反 靈岸島 寺嶋利兵衛

右去年年十二月中居町ノ窮民并平日出入ノ徒へ餅

米金子反物等ヲ施助セシヲ賞セラル

上ノ數人ノ如キ皆資性仁慈ノ發スル所ニシテ濟恤ノ

志真ニ感ズルニ堪ヘタリ況ヤ艶媚客ヲ引クノ娼妓ニ

シテ此舉ヲナスヲヤ世ノ富豪貪悋飽クヲヲ知ラズ毫

モ窮餓ヲ恤ムノ心ナキ者實ニ娼婦ニモ如ズト云ベシ

○大藏省中察司左ノ通定メラレタリ

一等察 造幣 租稅

二等察 戶籍 營繕 紙幣 出納 紗計 檢査

三等察 記録 驛遞 勸農

一等司 正算

任造幣權頭

造幣頭 馬渡俊邁

任租稅權頭

招方正義

同

吉田清成

任戶籍頭

從六位 河野敏鍊

任營繕頭

從六位 岡本義方

任營繕權頭

從七位 山口忠良

任出納頭

從五位 得能通生

任鈔計頭兼正算正

正六位 中村清行

任檢查權頭

正六位 伊集院兼寬

任記錄權頭

正七位 兵頭正懿

任驛迹頭

從七位 前島 密

任勸農頭

正七位 福原俊孝

任正算權頭

中村典兵衛

任副議長

從五位 江藤新平

任少議官

從二位 峰須賀茂部

同

從四位 大給 恒

同

從四位 秋月種樹

同

大藏大丞 谷 鍊臣

同

德島縣大參事 小室信夫

任陸軍少將

元無本藩知事 海軍少將細川護久

任大坂府大參事

從五位渡邊昇

任神奈川縣知事

陸奥陽之助

○方今恐多クモ 主上日々政廳エ 臨御萬機ノ御

政務 聞食サセラレ一日太政大臣ヲ 召セラレ左ノ

勅語アラセラレタル由

朕惟フニ風俗ナル者移換以テ時ノ宜シキニ隨ヒ國體

ナル者不抜以テ其勢ヲ制ス今衣冠ノ制中古唐制ニ模

倣ヒシヨリ流テ軟弱ノ風ヲナス朕太慨之夫 神州武

ヲ以テ治ムルヤ固ヨリ久シ 天子親ラ之カ元帥一為

リ衆庶以テ其成ヲ仰ク 神武創業 神功征韓ノ如キ

決テ今日ノ風姿ニアラズ豈一日モ軟弱以テ天下ニ示

ス可ケンヤ朕今断然其服制ヲ更メ其風俗ヲ一新シ

祖宗以來尚武ノ國體ヲ立ント欲ス汝其レ朕カ意ヲ體

セヨ

○先般清國エ差遣サレシ伊達大藏卿柳原外務大丞其

他隨從官員一同引纏メ歸國可致トノ命アリ

○至急御用有之外務大記花房義實清國へ被差遣ノ命

アリ

新聞雜誌第十二號 終

引札

一 上代衣服考 一名神服考 豊田長敦著述

右當今ノ衣服ハ 應神天皇以來漢衣ヲ模シ所謂カ
ラ衣ト唱シモノ 我國固有ノ衣ハ 神ノ御代ヨリ
御傳來恐多クモ代々ノ 天皇召セラレ廢人モ服シ
タルハ今ノ洋人ノ服ニ異ナラズ進退自由ノモノナ
ル由紀記萬葉ニ證ヲ得今般 官許ヲ經私店ニ於テ
發兌致候間御求ノ程奉希候

東京日本橋通四丁目
金花堂 須原屋佐助

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述レ明カニ但奇事異聞耳目ノ及ルハ處多シ願ク同好ノ人
同事ニヨラシ其嘉々ノ新聞ヲ書集ノ本局及ビ下ニ州ノ八責弘處ニ寄ルニ
ハ次第ニ刊行發兌スニ但高士ノ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載ルニ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アリテ思ハレナリ

- 田地山林家屋舟車等賣買賃借
- 新發明器及書籍等賣買
- 產物器具食品藥劑等一切賣買
- 金銀其外賃借等
- 諸船入奏出帆積荷物件等
- 失物尋物等
- 店々々々新規賣出等ノ引札
- 觀セモノ集會等ノ引札
- 右等何レレ一行廿三字一度出版價三匁宛同事件一ヶ月分一匁五分
- 三月分一匁四分五分六ヶ月分一匁四分一匁五分引受イタシ候

新聞雜誌定價

一 號定價銀二匁 當分一月三號發出版

二 三、月分引受候向一定價より一割半引

三 一、二、月分三割引

六月分八二割引

右定通約定前金受取候上、毎號發兌煩序ヲ逐々本局ニ送付
候又遠方取次賣弘方望ニ、本局ノ引合ノ上御相談可申候

東京小川町今川小島

本局

日新堂

同兩國橋山崎三丁目

賣弘所

和泉屋金石工門